

20057

緊急PCI シミュレーションの効果

NTT 東日本関東病院

庄司 香織¹、吉中 麻美子¹、吉野 和代¹、勝俣 麻衣子¹、山崎 正雄¹

【背景】当院の夜間・休日の緊急カテーテル検査は循環器医師2名、CCU看護師2名、放射線技師1名、生理検査技師1名が対応。CCU看護師は、月に1~2度日中のカテ室業務にあたる程度であり、夜間・休日の救急対応に不安の声が多かった。そのため、心カテ室の空き時間を利用し医師の協力も得られる時に緊急PCIシミュレーションを実施。シミュレーション経験者による効果が得られたため、ここに報告する。【目的】緊急時の正確な判断と迅速な対応を目指し個々の知識・技術の向上と不安の軽減を図る。【方法】対象者：CCU2年目以上看護師。方法：看護師2名（リーダー、スタッフ）医師2名、STEMI患者を想定。入室、検査、IABP挿入、治療、退室までの流れをDVD録画下で行う。評価者2名~3名で32項目に沿ってチェックを行い、DVDにより実施者自ら振り返りも行う。【結果】2011.3.~2012.5.まで5組実施。対象者から「IABP挿入時・救命時、看護師二人でどのように役割分担し、予測をする事の大切さを再確認出来た」「リーダー看護師はどのように指示を出し対応すれば良いか振り返る良い機会を設けられた」「苦手な部分が明確になって良かった」「不安軽減・自信へとつながった」という感想が得られた。【結語】シミュレーションは繰り返し行うことで体得でき、スムーズな急患対応・個々の自信につながるため良い効果が得られたと考える。しかし、実施にあたり各条件が揃わないとできない欠点もある。今後は各個人の能力にあった、短時間でできるシミュレーションなどを考慮し、継続が重要である。